

# 杉原千畝さんという方をご存知でしょうか？

～1/29(金)市民・会員交流フィールドワークで「杉原千畝記念館」を訪ねて～



杉原千畝(すぎはらちうね)、「東洋のシンドラー」とも呼ばれる外交官です。彼は、第二次世界大戦中、日本領事館領事代理として赴任していたリトアニアのカウナスという都市で、ナチス・ドイツによって迫害されていた多くのユダヤ人にビザを発給し、彼らの亡命を手助けしたことで知られています。

その杉原千畝さんの出身地が岐阜県の八百津町に記念館があるのは以前から知っており一度行きたいと考えておりましたが、この度フィールドワークに参加できやっと実現しました。

戦時中の時代に、このような正義感を持たれ人として命のビザ発行を決意し、外交官である前にひとりの人間でありたいと考えられたのでしょうか。

## 杉原千畝記念館

〒505-0301 岐阜県加茂郡八百津町八百津1071  
TEL/FAX: 0574-43-2460

(レポート: なっちゃん)

## ● 会員募集

### 活動内容

人権意識をたかめるための研修会などへの参加・参画。  
人権尊重の理念を広く市民に広げるための啓発・広報活動など。  
会費等はありません。

## ● ヒューマンライター

大東市で人権推進につながる取り組みを行っている方々の取材をしていただける方(ヒューマンライター)を募集します。

【応募方法】様式は問いません。

ご住所 お名前 電話番号を記載の上 郵送、FAX でお願ひします。

〒574-8555 大東市谷川1-1-1

大東市役所 (市民生活部 人権室内)

人権啓発ネットワーク大東事務局

TEL: 072-870-0441 FAX: 072-872-2268



## 今晚地震が起きても、ホンマに大丈夫ですか？

「本当に生きた心地がしなかった。」

「まさか熊本で大きな地震が起これとは夢にも思わなかった。」

「もし、地震の前の日に戻れるのなら、きちんと準備をしておくべきだった。」



熊本・大分県を襲った突然の大きな揺れは、人々の暮らしに想像もつかない大きな被害をもたらしました。ようやく被災地では仮設住宅への入居が進められ、復興への道筋が立とうとしていますが、地震発生直前まで平穏だった街の姿は形を変え、未だ人々の心の傷は癒えません。

自然に対して人間はあまりにも非力で、自然災害は全ての人々が幸福に生きる権利を容赦なく奪います。近年の大災害の教訓から、何を学んだのでしょうか。

災害は全ての人に容赦なくふりかかります。その中で、特に支援が必要といわれる災害弱者(障がい者、高齢者、女性など)にとっては、混乱した環境下で避難する際、より過酷な状況にみまわ

れてしまいます。

かけがえのない命を守るためにも、私たちは災害の歴史を決して風化させず、課題や教訓を日頃の生活に活かし、次の世代に受け継いでいくことを忘れてはなりません。

いつ発生するかわからない大地震。私たちが住む大東市でも、決して他人事ではなく、近い将来高い確率で発生が危惧されている南海トラフ大地震や、発生すると大きな被害が想定されている生駒断層地震などの防災対策が進められています。

災害直後の混乱期は、行政はもとより、消防や警察なども対応が困難となります。また、ライフラインはもとより、通信手段が途絶えてしまった状況では、隣近所だけで倒壊した家屋の下敷きとなった人々の救助や消火作業を行い、地域住民だけで殺到する避難所の開設と初動の運営にかかわらなければなりません。大阪特有の「何とかやるぞ」「赤信号、皆で渡れば...」的な発想では絶対何ともなりませんし、実際に極限の状態に置かれると、自分や家族を守ろうとするあまり、自己中心的になり、排他的になる傾向にあります。起きてからでは遅いのです。私たちは、頭ではわかっているのです。





これらの光景は、今に始まったことではなく、発生から5年が経過した東日本大震災や、特に私たちが身近に経験した阪神淡路大震災により、誰もが知っている事実です。

しかし、今回の熊本地震でも見られたように、支援物資の分配作業等に混乱が生じたことに加え、住民の日頃からの大地震への心構えや備えも十分ではなかった事も重なり、避難所では各家庭での備蓄食糧や水を持参した住民が少なく、行政の備蓄食糧などがすぐに底を突くなど、混乱を極めたと言われています。

いざという時に、被害を最小限に抑えるためには、まず自らの身の安全、隣近所など地域での助け合い、そして関係機関との連携が重要です。

災害は我々の想像を遥かに超えた規模で忘れた頃にやってきます。非常用持ち出し袋の準備、食糧や水の備蓄、耐震対策など我が家の備えは万全ですか？家族での避難場所や避難ルートの確認、連絡方法は大丈夫ですか？是非、家族で災害時の行動と準備について話し合ってみてください。そして、日頃から自主防災訓練などの参加で防災意識を高めましょう。

「今晚地震が起きても、ホンマに大丈夫ですか？」

大災害から暮らしを守れるよう皆さんと一緒に取り組んでいきましょう。

(ヒューマンライター：山元)

ビートルズ来日50周年記念展

赤穂市立民俗資料館訪問

## ビートルズの世界は、隠れた平和・人権の世界でもある!?

赤穂市立民俗資料館に入ると、ビートルズの「ハードデイズ・ナイト」があまり大きくない音で流れ、メンバー4人の大きな垂れ幕や多様なグッズが所狭しと置かれています。50年前に初めて来日し、東京武道館で開かれたコンサートの未使用のチケットの現物も置かれています。僕も50年前にファンの一人として東京武道館に馳せ参じたが、A4紙を横半分に切ったくらい、あんなに大きな入場チケットだったのかと、いまさらながらに驚きました。

受付の職員にグッズの出所をお聞きすると、市内の熱狂的なファンの収集物で、ビートルズの出身国であるイギリスまで行って、ビートルズの写真が盤の表面の全部を占めている、国内では見たこともないレコード盤数枚を、その当時買ってこられたとか。ほかにも国内で販売されていたものと少しデザインや写真が違うレコードやCDが、いくつも見受けられ、ファンとして入っている曲をそれぞれに聞いてみたい衝動に駆られます。民俗資料館1階フロアの全部がビートルズ一色の不思議な世界を見た気がしました。

僕が、妻と一緒に赤穂市までビートルズを見に行った理由のもう一つは、4人のメンバーの一人、ジョン・レノン



の平和や人権を訴える空気や、ジョージ・ハリソンのインド楽器シタールを通じた宇宙観のようなものを感じたいと思ったことです。

日本の東洋文化に興味を持っていたジョン・レノンは、ビートルズが解散する1970年前後、日本人女性オノ・ヨーコさんと結婚し、ニューヨークを生活の拠点にベトナム戦争に反対する活動を続けたといえます。この頃に世界中で大ヒットした「Give Peace a Chance(平和をわれらに)」や「イマジン」が発表されたのです。アメリカで戦争に反対する慈善コンサートを数多く開いた彼は、'80年12月、ヨーコさんとの食事帰りに熱狂的なファンに拳銃で撃たれて亡くなるまで、FBIの監視が続いたといわれています。

残念ながら、来日50周年記念展では'50年代の古いロックを、'60年代の新しいリズム感あふれたロックに先導したビートルズの功績ばかりが強調されたものでしたが、それはそれで強いファンの一人として、懐かしくもあり、新しい発見でもありました。

最後に、民俗資料館に流れていた「イマジン」の歌詞に平和への祈りを感じつつ、ビートルズ来日50周年記念展探訪記を終わります。

(レポート：松ちゃん)



### ジョンレノンのイマジン日本語訳抜粋

想像して 天国はないと 下に地獄はなく  
 上にあるのは空だけ  
 想像して 今日のために生きているすべての  
 人々を 想像して 国がないことを  
 殺す人も 誰かのために死ぬこともない  
 そして宗教もない 財産がないのを  
 君は想像できるだろうか  
 想像して すべての世界を分かち合う  
 すべての人々を 世界は一つとして生きて  
 いくだろう



地域集会の様子

## 地域集会に参加して

今年度のテーマは「認知症」。はじめに見たDVD『ここから歩き始める』認知症を共に生きる』では、父が仕事を引退後、妻を亡くし認知症に。子ども達は悩みながら、近所の方の支えや制度等を知る中で、関わり方を見つけていく・・・。

私自身、非常に関心のあるテーマだ。身近な人が認知症で、妙なことをする度に「違う」と指摘し、腹立ちや悲しみの中、関係が悪くなる。しかし「そうやねえ」と流すのも、かえってバカにする罪悪感がある。

その場で「どうすれば？」と質問をしたら、「そのままを認めることで自尊心が保たれ、お互い穏やかになる」と教えて下さった。

認知症を理解し、同じ悩みを抱える者が支え合うことの大切さに気付いた。「認知症サポーター」養成講座(窓口・高齢支援課)を早速申し込みたい。

(レポート あき)